

毛呂山寺子屋の取組

経営学部 新井浅浩

本日の内容

- 毛呂山寺子屋の取組

目的と活動内容

活動実績

評価

- 経営学部地域連携の取組

毛呂山寺子屋

- 目的

地域(毛呂山町)の子どものニーズを把握し、課題解決に主体的に取り組む。

- 活動内容

学習したくてもできない環境下にいる地域の子どもたちに、本学学生が主となって学習環境を無償で提供する。

- 開設日時 月、火、木曜日(週3日)

- 開設場所 武州長瀬駅 徒歩2分

- 参加学生 各学部の学生

- 運営協力 経営学部新井研究室
佐藤秀樹毛呂山町議



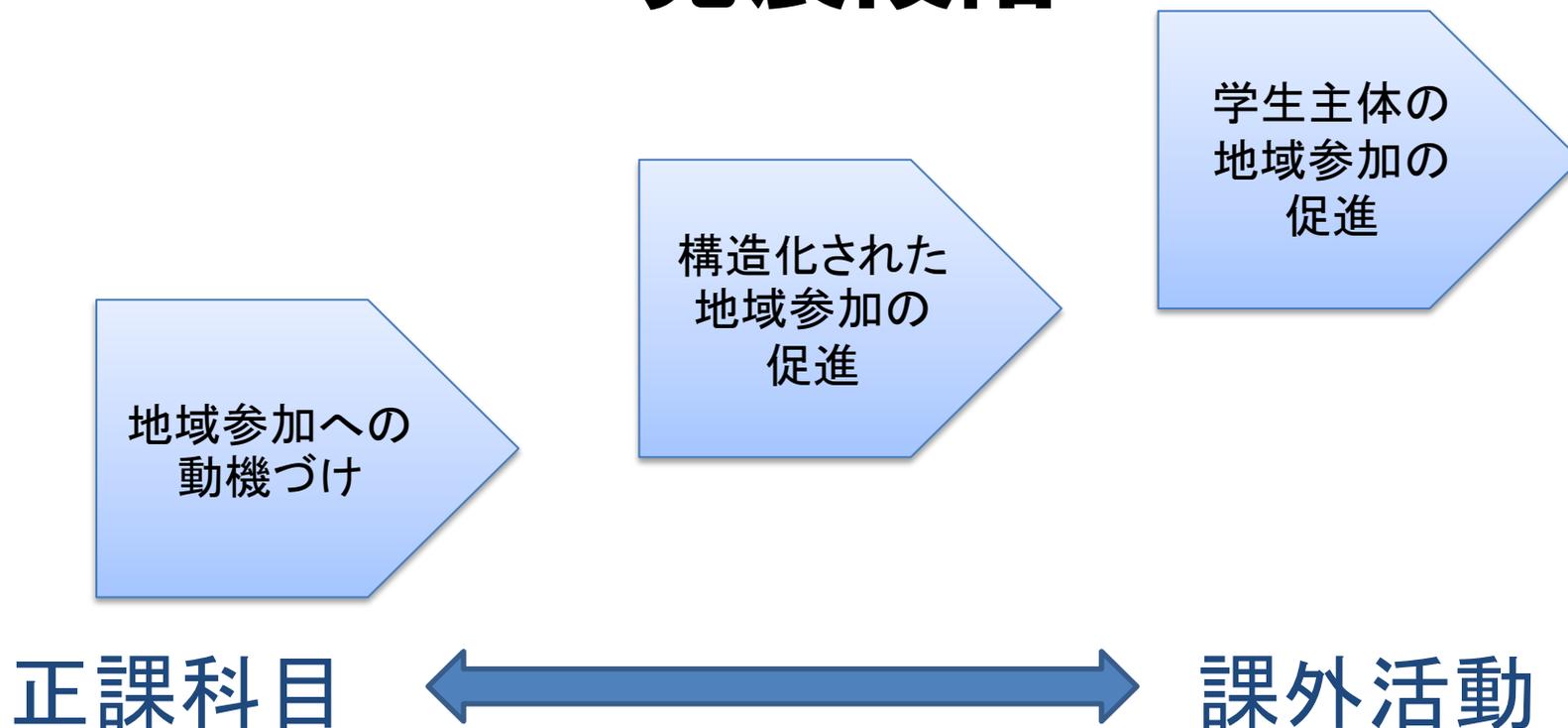
毛呂山寺子屋の 大学教育における意味

- 学生が**主体**となった**サービスラーニング**
- サービスラーニングとは

教育活動の一環として、一定の期間、地域のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動を体験することによって、それまで知識として学んできたことを実際のサービス体験に活かし、また実際のサービス体験から自分の学問的取組や進路について新たな視野を得る教育プログラム。

(中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」用語集p.38より)

サービスラーニングプログラムの 発展段階



アメリカのサービスラーニングの研究に 学ぶ意義

- 1960年代から始まったものが、1990年「国家及びコミュニティ・サービス法」制定により全米に拡大した。
- アメリカのサービスラーニングには、実践研究の豊富な蓄積がある。
- エビデンスに基づく教育を重んじる傾向が強い。

毛呂山町の教育課題

- 基礎学力に課題がある(とくに国語力)

小学校5年国語 県 64.5点 毛呂山町 59.9点

同 算数 県 68.9点 毛呂山町 68.7点

—2016年度埼玉県小・中学校学習状況調査より—

- 家庭での勉強時間が少ない

「予習・復習をしていますか」という項目については、「している」または「どちらかと言え ばしている」と回答した児童・生徒が、県の割合に比べて少ない。またゲームをしている時間が比較的長く、家庭での勉強時間が少ない傾向にある。

—同上調査より—

- ひとり親家庭が少なくない

児童扶養手当申請者数 302世帯 (2016年4月現在)

学生の主導による基本方針の設定

寺子屋では子ども達の学習環境の提供のほかに

「主体性」

を身につけることを目標としています。

それを支える柱として

「先を見通す力」

「けじめ」

「規律」

を定めています。

この教育目標を達成するために普段の取り組みで、規則や時間を守ることを呼びかけています。他にも、子ども達の行動を定期的に見つめ直し、よりよい環境づくりを日々の活動の中からも目指しております。

学生が設定した寺子屋ルール

1. 寺子屋に来てから、帰宅するまでの間、無断外出は禁止
外に出る場合、必ず大学生、または大人の許可を取る。
2. 時間を守る
3. 机や椅子などの片づけ
来た時よりも整っている環境を目指す。
4. 大きな物音、声をあげない
5. その他、周りの迷惑行為の禁止
6. 休み時間以外の食べる行為の禁止
7. 暴力行為の禁止
8. 時間を見て自主的に行動する
※このルールは、みんなが安全に、気持ちよく寺子屋を使用するためのものです。
必ず守りましょう。

学生が設定した寺子屋時間割

18:30 ~ 18:40 勉強の準備の時間

- ・その日に行う教材の用意及び、鉛筆を削るといった勉強の準備

18:40 ~ 19:30 勉強時間

- ・勉強の時間になっても着席せず、勉強ができなかった場合、勉強時間を5分延長する

19:30 ~ 19:40 休み時間

- ・この時間のみ食べる行為、寺子屋にない物を使用しても

19:40 ~ 20:00 **ふれあいタイム**
(大学生と子どもとの交流の時間)

- ・ふれあいタイムで使えるものと記しているバスケットの中の物を使用してよい
- ・読書又は勉強を行ってもよい



活動実績

- 2014年度

登録小学生5名、中学生8名 指導学生7名

週4日

行事: ハロウィンパーティー、クリスマス会、進級パーティー

- 2015年度

登録小学生16名 指導学生10名

週4日

行事: 「留学生交流会」「クリスマス会」「送別会」他

一続き

- 2016年度
登録小学生6名、
指導学生7名
週3日
行事:「留学生交流会」「クリスマス会」「送別会」
- 2017年度
登録小学生4名 中学生1名 指導学生9名
週3日
行事:未定



寺子屋活動においてルーブリック評価 を開発する意義

- 正規の授業ではないが……。
- 学生にとって体験していることの自分にとっての意義が明確化される。
- プログラム自体の効果を(学生の学びという視点で)明確化できる。
 - ➡ プログラム継続のために

サービスラーニングの評価の研究から

- アカデミックな面の発達 ←効果については諸論あり

- 市民的責任性 ←効果が高い

将来地域の活動に参加する意欲
自分たちが地域を変革できると信じる
地域への貢献は重要であると考え

Ali Hebert and Petra Hauf(2015). Student learning through service learning: Effects on academic development, civic responsibility, interpersonal skills and practical skills, *Active Learning in Higher Education*, Vol.16(1) pp.37-49.より

一続き

- 実際的スキル
 - クリティカル思考スキル
 - 作文スキル

- 対人関係スキル
 - 言語的コミュニケーション力
 - リーダーシップ
 - チームワーク

←統制群と差なし

←効果が高い

ループリック(対人関係スキル)

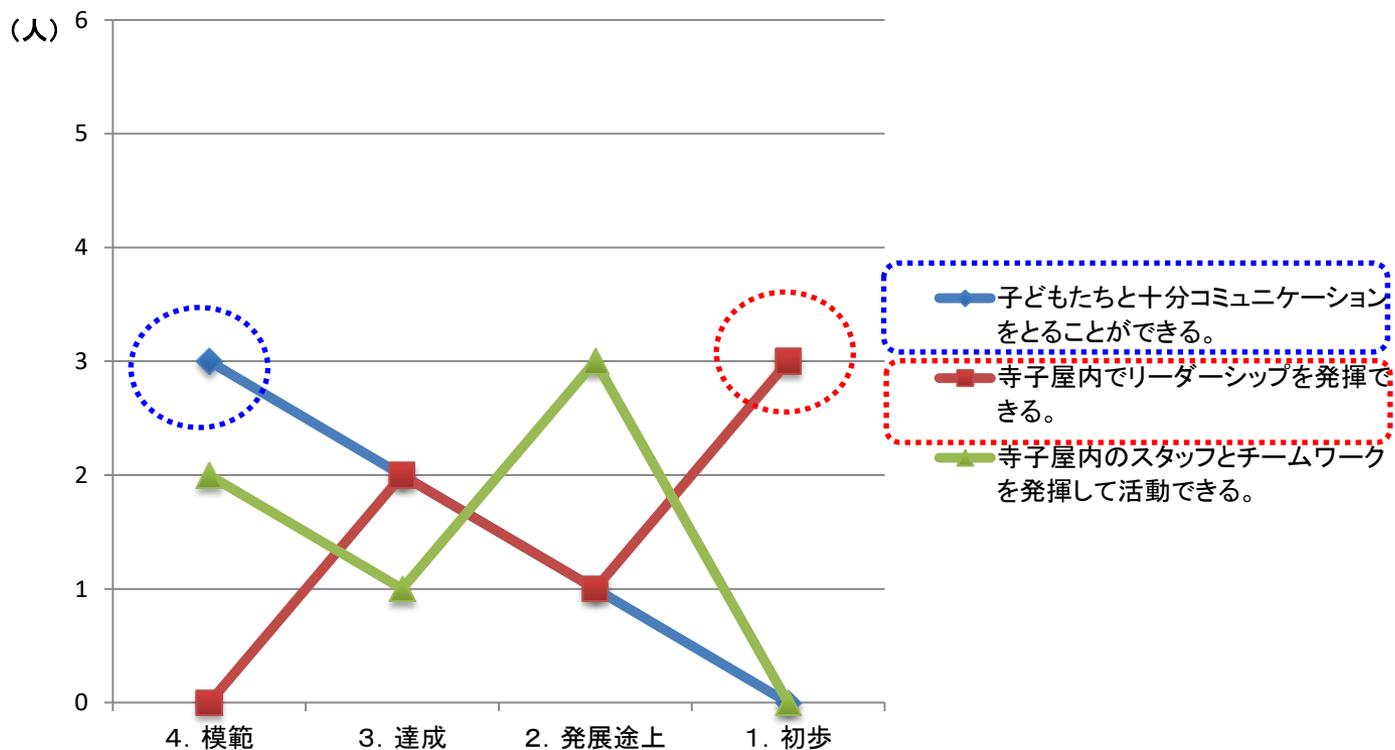
対人関係スキル	評価基準			
目標(評価規準)	4. 模範	3. 達成	2. 発展途上	1. 初歩
子どもたちと十分コミュニケーションをとることができる。	子どもたちと臨機応変にコミュニケーションをとることができる。	子どもたちの反応に合わせた会話ができる。	子どもたちに話しかけることができる。	子どもたちに話しかけることができない。
寺子屋内でリーダーシップを発揮できる。	寺子屋の運営全体をリードする。	寺子屋のスタッフをリードし、子どもたちもリードできる。	子どもたちをリードすることができる。	行動が受け身である。
寺子屋内のスタッフとチームワークを発揮して活動できる。	チームワークのために、他のスタッフに常に目を配ることができる。	チームで組むときは、チームワークを発揮して活動できる。	チームで組むときは、他者と協調することを意識できる。	単独でしか行動できない。

ループリック(市民的責任性)

市民的責任性	評価基準			
目標(評価規準)	4. 模範	3. 達成	2. 発展途上	1. 初歩
地域の課題を理解する。	地域の課題を様々な調査や事例を踏まえて総括できる。	地域の課題を網羅的に指摘できる。	地域の課題を体験した事例にもとづき、いくつか指摘できる。	地域の課題が何かわからない。
将来地域の活動に参加する意欲を持つ。	将来地域の活動に参加する意欲を持ち、具体的な展望をもつ。	将来地域の活動に参加する意欲を大いに持つ。	将来地域の活動に参加する意欲を多少持つ。	将来地域の活動に参加する意欲はない。
自分たちが地域を変革できると信じる。	自分たちが地域を変革できると信じ、具体的な展望をもつ。	自分たちが地域を変革できると信じる。	自分たちが地域を変革できると多少信じている。	自分たちが地域を変革できると信じていない。
地域への貢献は重要であると考える。	地域への貢献することの重要性を事例や理論を用いて説明できる。	地域への貢献することの重要性を体験した事例や、他の事例をあげて説明できる。	地域への貢献することの重要性を体験した事例をあげて説明できる。	地域への貢献することの重要性は理解していない。

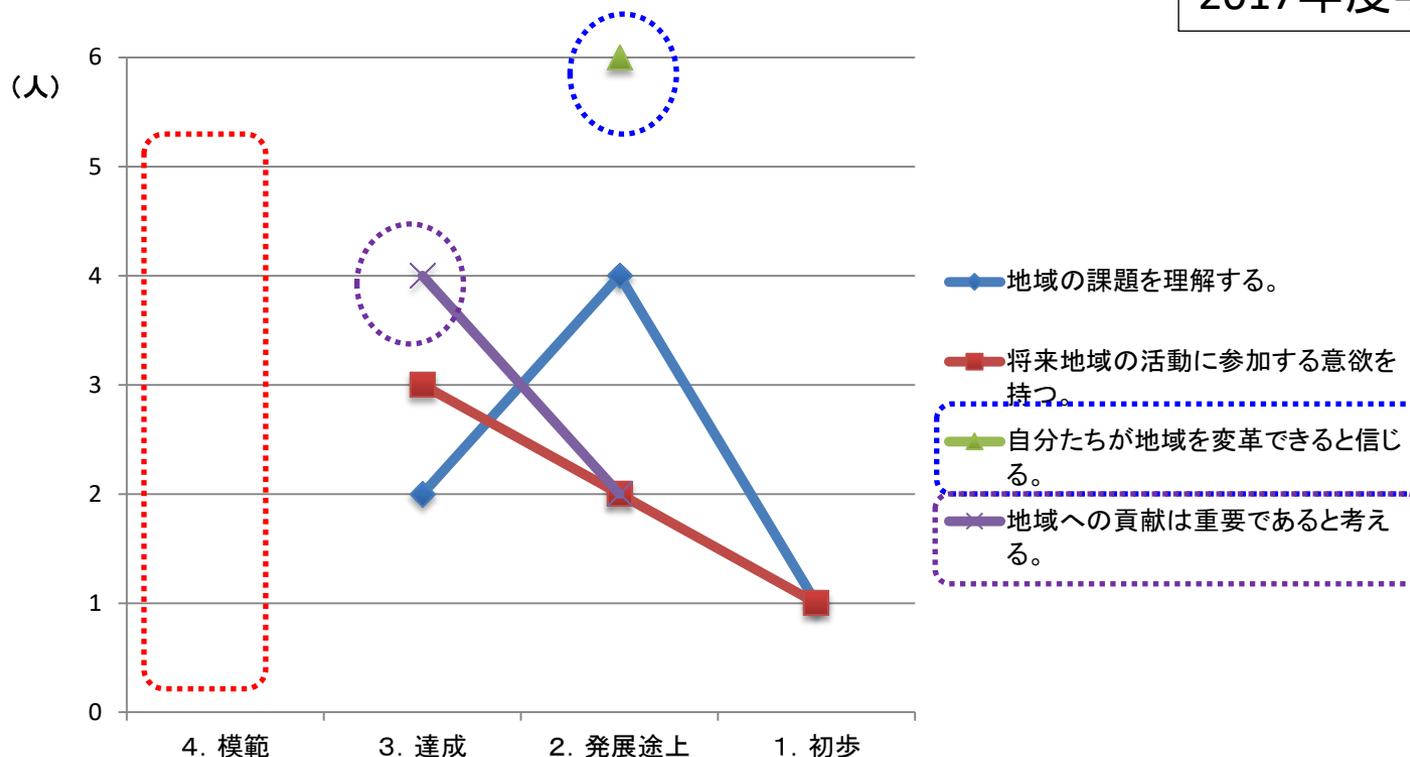
ループリックによる自己評価 (対人関係スキル)

2017年度学生6名



ループリックによる自己評価 (市民的責任性)

2017年度学生6名



参加学生の声

- プレゼンカ・コミュニケーションカ・子どもに対する接し方は確実に身についた。
- 地域の課題を実感したとは言えない。
 - ➔ 参加する子どもが変化してきたのでは？
- 先生方がいない分、その「場」の責任をすべて持っているという感覚があった。

プログラム継続における課題

- アメリカのサービスラーニング(SL)の先行研究によれば、プログラムが成功要素を全て備えていても、長期間にわたる SL プログラムの維持が困難であることが指摘されている (Shulha and Piker, 1995)。
- SL はそれ自体のために制度化されるのではなく、むしろ、大学の重要な目標を達成するための戦略として活用するとき、最も上手く持続することも明らかになった(Holland, 2000)。

『アメリカ高等教育におけるサービス・ラーニングの制度化過程に関する研究』(2012 年度博士学位論文)桜美林大学大学院 ライトウ山崎晴世

経営学部のディプロマ・ポリシー

- 経営学部では、地域社会や国際社会で活躍する起業家精神(アントレプレナーシップ)を持ったマネジメントのプロフェッショナルの育成を目標としています。所定の単位を取得し、以下の知識・能力を修得したと判断された人に学士(経営学)を授与します。
 - 幅広い教養とマネジメント(経営学、マーケティング、会計など)についての専門的知識
 - 地域社会や国際社会で活躍するための基礎的能力(コミュニケーション・リテラシーとメディア・リテラシー) ←
 - マネジメントに関わる問題や課題を自ら発見し、解決するための思考力・判断力・実践力 ←
 - 起業家精神(アントレプレナーシップ)を持ち、社会や組織の中でリーダーシップを発揮し、価値を創造する能力 ←
 - 多様な人と協力し、市民としての高い責任感と倫理観を持って主体的に社会に貢献する能力 ←

参考：毛呂山町の取組の例

- もろ丸くんまなびアップ教室
(土曜日の地域学習支援事業)



児童(小学4・5・6年生)が抱える学習内容(国語・算数)に関する不安を解消することで、学習意欲を高め、学力の向上につなげていくため、月2回程度、町内2会場(中央公民館・歴史民俗資料館)で地域学習支援事業を実施

↑本学学生が学習支援員として参加(4名)

経営学部における地域連携の取組例

まちづくり	
プロジェクト研究(高麗川プロジェクト)	プロジェクト研究科目
スチューデントインターンシップ	
坂戸市役所とのコラボ授業「地域の行政」	専門科目
ゼミナール(例: 石井ゼミ; ローカルヒーロー)	ゼミナール
ユースwith シニア	課外活動

「まちづくり」

- 学生たちが大学の地元である坂戸市や近隣の鶴ヶ島市、越生町などで行われるイベントやプロジェクトに参加し、まちの活性化やまちづくりに必要なノウハウなどを学ぶ。
- 2016年度の実績
クリーンキャンペーン、坂戸七夕祭り、越生祭り、坂戸夏よさこい、鶴ヶ島脚折雨乞い、鶴ヶ島市国際交流フェア2016、高麗郡建郡1300年 古代装束絵巻2016、サムルノリin高麗2016
- 昨年度履修者 **約450名**



「地域の行政」

- 行政の現場の最前線で働く市役所職員の方々の話を聞くことで、学生が地域の課題を知り、解決策を考えるだけでなく、職員の方々が所属する部署で問題解決に取り組んでいる経験を聞く。

前期の内容

5月11日	坂戸市の概要、重点政策	坂戸市企画幹
5月18日	坂戸市の財政状況	財政課
6月1日	坂戸市の環境政策	環境政策課・環境保全課
6月8日	坂戸市の河川について	道路河川課
6月15日	地域活動のススメ	市民生活課
6月29日	市税のあらまし	課税課
7月6日	マイナンバー制度	情報政策課
7月13日	選挙制度	庶務課
7月20日	公共施設等マネジメントについて	施設管理課

プロジェクト研究 I (高麗川プロジェクト)



前期

城西大学における地域活動の情報収集

高麗川遊歩道でのフィールドワーク

グループワークによるプロジェクトの考案、発表資料の作成

プレゼンテーション

振り返り(ルーブリックによる自己評価、自分自身の成長をレポート)



後期

プロジェクトの実践

ユースwith シニア

- 学生と地域のシニアが共同で、埼玉新聞の紙面をつくる。
- 事業主体 埼玉新聞社／坂戸市文化会館
- 協力団体 城西大学／埼玉新聞事業社／東上線NPOネット

ユースwithシニアの活動背景

城西人学 × 埼玉新聞

城西大学の学生とシニアがともに
埼玉新聞の紙面をつくります



- [事業主体]
- 埼玉新聞社／坂戸市文化会館
- [協力団体]
- 城西大学／埼玉新聞事業社／東上線NPOネット

ご清聴ありがとうございました。